

科目名 (英語表記)	実務実習 (Business Practical Training)						ポートフォリオ
学年・専攻	1年・機械電気工学専攻		単位・期間	必修2単位・通年(合計90時間)			< 学生が記入する上での注意事項 >
担当教員	機械電気工学専攻主任	連絡先	機械、電気情報工学科棟 指導教員研究室	オフィスア ワ	月曜日16時20分～		【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。
【授業目的】 総合機械電気メーカーや宮崎県下の企業において実習を一定期間実施することで、より実践的で現実的な技術を体験させると同時に、専門的知識や技術の重要性および現場での問題点を認識させ、その後の専攻科での学習研究生活の糧とする。							【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。
【履修上の注意】 実習は総合機械電気メーカー及び宮崎県下の企業等において夏期休業中の適当な期間に2週間(実働10日)以上実施し、学習した事柄は報告書としてまとめ、指導教員へ提出する。							【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。
【事前に行う準備学習や自己学習】 担当教員の指示に従うこと。							【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。
【達成目標】 1) 規定の期間に与えられた実務を行うことができること。 2) 規定の様式に基づき実務報告書を仕上げるができること。 3) 分かりやすいプレゼンテーションを行うことができること。							ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。 < 教員が記入する上での注意事項 > 教員は、◎が付いているところだけを記入すること。
学 習 到 達 目 標							
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 (A)	標準的な到達レベルの目安 (B)	未到達レベルの目安 (C)				ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。
評価到達目標項目1	応用専門技術を理解し、現場での問題点を指摘できる。規定の期間に与えられた実務を確実に実行することができる。	基本的な専門技術を理解し、規定の期間に与えられた実務を行うことができる。	担当員の十分な指導と協力の下で、与えられた実務を行うことができる。				【自己評価】 A ・ B ・ C
評価到達目標項目2	報告内容が十分に論理的にまとめられ、自主的・積極的に規定の様式に基づき実務報告書を仕上げるることができる。	報告すべき基本的な内容が記述され、規定の様式に基づき実務報告書を仕上げるができる。	担当教員の十分な指導の下で、実務報告書を仕上げるすることができる。				【自己評価】 A ・ B ・ C
評価到達目標項目3	主体的な準備がなされ、報告内容が十分に論理的にまとめられ、分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。	報告すべき基本的な内容が記述され、分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。	担当教員の十分な指導の下で準備されたプレゼンテーションを行うことができる。				【自己評価】 A ・ B ・ C
到 達 度 評 価 (%)							
評価方法	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計
指標と評価割合			25	25		50	100
知識の基本的な理解			15	15		20	50
思考・推論・創造への適応力			10	10		10	30
汎用的技能							
態度・志向性(人間力)							
総合的な学習経験と創造的思考力						20	20
【教科書】 特に指定しない。							成績の評価方法について
【参考資料】 特に指定しない。							実務実習先による実習評価(50%)と学生自ら作成する実習報告書(25%)およびそのプレゼンテーション(25%)を総合して評価する。
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(低学年)				【JABEE基準との対応】			
【学習・教育到達目標との対応】(高学年・専攻科)				(a)~(h)			
				(A)~(D)			

【授業内容】			【授業計画の説明】(実施状況の記入)
授 業 要 目	内 容	時 間	
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	1	
1. 事前指導	実務実習に先立って、心構えやマナーを習得する。場合によっては実務実習先の選択についてアドバイスを受ける。	1	【理解の度合】(◎教員は授業の実施状況を記入)
2. 実務実習	企業の生産現場や研究所において、企業担当者の指導のもとに、機械電気工学に関連する生産技術や研究の実務を行う。	80	
3. 実習報告書の作成 実務実習報告会の準備	実習内容についての報告書を定められた様式に従って作成する。実務実習報告会での発表用にパワーポイントを作成したり、発表練習を行う。	6	
4. 実務実習報告会	実務実習の概要についての報告を行う。	2	
	合計時間	90	【総合達成度】 総合評価の点数() (◎教員は学生に総合評価を通知する)
【備考】			【評価の実施状況】 (◎教員は総合評価を出した後に記入する。)